Meta「Muse Spark Open」の公開と企業知財業務へのインパクト

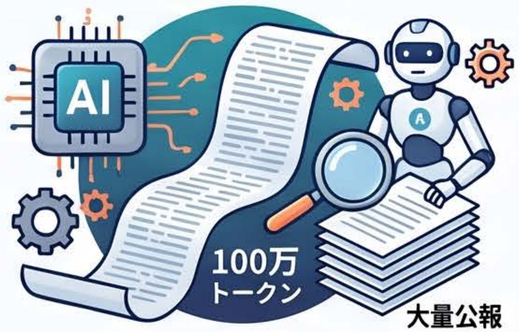
2026 年 10 月にMetaが公開した「Muse Spark Open」は、自社環境 (ローカル) で稼働可能な米国製最高峰のオープンウェイトAIモデルです。これまでAI活用が難しかった未公開発明などの機密情報を安全に処理できる一方、独自ライセンスの遵守や日本語実務性能の検証など、戦略的な導入プロセスが不可欠です。

知財実務における3大インパクト



機密資料の完全ローカル処理を実現

発明届出書や未公開出願を外部へ送信せず社内環境で安全に処理可能です。



100万トークンの長文脈と高いエージェント性能

大量公報の一括分析や調査業務エージェント化への活用が期待されます。



独自ライセンスと用途制限への留意

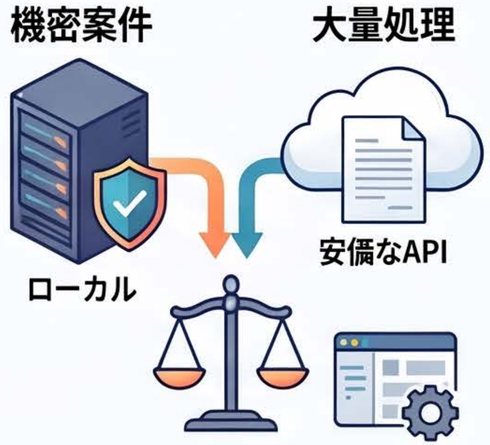
MaaS提供時の売上条項や軍事・防衛用途の禁止規定へ事前確認が必要です。

知財部門が取るべき推奨アクション

短期（〜3か月）：公開情報でのPoCと規程改訂



中期（3〜12か月）：ハイブリッド運用基盤の構築



短期（〜3か月）：公開情報でのPoCと規程改訂

公開公報で精度を実測し、機密度に応じた社内AI利用ルールを策定します。

中期（3〜12か月）：ハイブリッド運用基盤の構築

機密案件はローカル、大量処理は安価なAPIへと使い分ける体制を整備します。

Gemini Notebook